

## 反社会的勢力

JJ1SXA/池

先日、みずほ銀行が、反社会的勢力との取引をし、発覚後も看過していたということで、大問題になりました。

反社会的勢力を、(独法)中小企業基盤整備機構が、「反社会的勢力対応規程」で定義しています。

要約すると、暴力団、暴力団員、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等と次のいずれかに該当する関係にある者(経営を支配、経営に実質的に関与している、利用したと認められること)となっています。

一寸分りにくいのは、「社会運動等標ぼうゴロ」です、内容は、「社会運動若しくは政治活動を偽装し、又は標ぼうして、不正な利益を求めて暴力的不法行為等を行うおそれがあり、市民生活の安全に脅威を与える者をいう」となっています。

中小企業が被害にあわないための対応規程だからですが、「…不正な利益を求めて暴力的不法行為等を行うおそれがあり…」の文言を除いた「社会運動若しくは政治活動を偽装し、又は標ぼうして、…市民生活の安全に脅威を与える者をいう」は、正に、左翼の団体、左翼の文化人、歴史学者等のいわゆる知識人や政治家等々、で、反日の発言を繰り返し、行動する人達が該当するような気がします、反社会的勢力は暴力団関係のみにあらずということです。

捏造の歴史、歪曲された自虐史観を振りかざし、反日の発言、行動をする者は、「市民生活の安全に脅威を与える者」と言わざるを得ません。

過激な極左の団体は、当然当てはまると思うのは自然でしょうが、選挙で選ばれた国会議員や、なまじ有名になった、いわゆる文化人は、反日の極左思想を持っていても、それ等の極左団体とは違うといった感覚で接しているのも現実です。

マスコミに巣食うマルクス主義を信奉し、新聞・雑誌、テレビ・ラジオ等で偏向報道を繰り返す人達、如何に言論の自由があると言っても、余りにもひどい反日の態度、私は、これ等の者たちを、一括して、「反社会的勢力」と言いたい。

極左団体は別にすれば、暴力団のような暴力は無いので、「反社会的勢力」のレッテルに、一般市民的には戸惑うかも知れないが、角度を変えて見れば、ペンの暴力、声の暴力はすさまじい、ある意味暴力団よりも始末が悪い。

亡国を憂いてみても、それを阻止する力は、私には皆無、情けないが、それが現実、せいぜい、愚痴の文章を綴るのみ、日本が、真の日本になることを期待しながら、愚痴を書きまくってストレス発散、それが日常となった今日この頃、後数年の寿命だが、真の姿を取り戻した日本を見ておさらばしたいものだ、それまでしぶとく生きよう(笑)

(5,Nov,2013 記)